

一白岩館

白鳥十郎武任のち別白岩館といふ人
居候を——社と云武任没後白鳥白岩は
松永右門といふ人なりと羽原記に見へり
按るにけ人革刀の部士とや松永妻子と
人質と——社文を添て菊光のち——屋に
十郎武任の余類を祀さん、あ松永父子は
百出本館お達なく、下高城を祀まざる處
忠三郎曰ふ初孫七郎、每人を双添——をけ
以白鳥十郎の息女日吉傳女二人と部士

安信源々清昌墓百具——谷地の山中幸生
~~山梨の墓は~~
~~はあり~~の百姓次郎を祀被服は思て居
り、次郎といひ、谷地の所人として日吉女は
乳を上へる人の中なり、故に乳母安んじれ
令根をよへ、家宅を極へ、住るに、心替へ
ま娘潜に宅を出て白岩は訴ふ、松永右門古
この思ひを言ふれ、又十人半、鶴江と云
所のち氏を案内と——日吉の居候を五圍
源々清日吉は女房二人、并下人久助といふ
ものを付て沼平（落き、赤子の犬、昌墓